

郷土を知る むかしむかし 吉々の そお市

生涯学習課 文化財係 0986-76-8873

第69回

縄文土器

～人類最古の発明～

土器の誕生が挙げられます。作り方は粘土をこねて形成し、文様や装飾を施してから、野焼きで焼成するというシンプルな方法です。熱により粘土内に含まれるガラス成分が化学反応を起こし、強度や耐熱性が高まり、保水性が加わるようになります。土器は化学変化を利用した人類最古の発明品で、※ほうしゃせいなんそねんだいそくてい放射性炭素年代測定では、縄文時代草創期の土器が約1万6千年前のものという数値が表れています。

土器の誕生は人々の生活に大きな変化をもたらすことになります。煮焼きができるようになり、土器の誕生以前は食べ物として見なされることが少なかつたと考えられるキノコ類や根菜類、縄文時代の環境変化で増加した堅果類も、加熱によりおいしく消化しやすい食べ物となります。また洗濯・あく抜き・解毒殺菌も行えるようになります。衛生的な水を得られるようになります。縄文時代は食生活がより安定し、栄養状態が良くなり健康が増進し、人口増加や寿命も延びたと考えられます。

※放射性炭素年代測定

遺物に残された炭素を分析し、炭素の残存量から年代を測定する方法。

縄

文文化の大きな特徴として、土器の誕生が挙げられます。

市内でも縄文時代草創期から晩期まで、1万年以上続いた縄文時代の遺物が大量に出土していますが、土器の出土量は非常に多く、長い時間をかけて形態や装飾が変化したり、遠く離れた地域の土器が搬入されていたりと、当時の文化や技術の交流、人員の移動または集団の移住といった背景が想定されます。また人々の生活に密接し、生産から使用、破壊までのサイクルが速い土器は、年代の変遷や地域差の研究に最適な資料となります。時代や時間

を示す物差しとなるため、考古学では土器を重要視しています。

煮焼き用として縄文時代に誕生した土器は、試行錯誤を繰り返しながら地域性に富んだ変化を繰り返し、焼き物として現代もその技術は受け継がれています。

曾於市史編さん情報局

曾於市にゆかりのある資料・写真・情報をお持ちの方は生涯学習課までご連絡ください。



宮之迫遺跡出土の土器
末吉歴史民俗資料館に展示

